

平成 26 年度

「ふくしま子ども宣言」作文コンクール

## 入賞作品集

テーマ

「ありがとうの気持ちを忘れない」

友だちや 家族を 大切に する	ありがとうの 気持ちを 忘れない	命を 大切に する
社会の 一員として 人の役に 立つ	読書で 心を 豊かに する	夢に 向かって 努力 する

子どもたちの、子どもたちによる、  
子どもたちのための宣言

ふくしま  
子ども憲章

自分が大切にしたいこと、  
心がけたいことを書きましょう。

最優秀賞

広がる未来

石川町立石川小学校

小豆畑 あすはた

咲季 さき

私の家は酪農家です。福島第一原発が爆発し、テレビで牛乳の出荷が制限されたというニュースが流れた時、今まで感じた事もないくらい、大きな不安でいっぱいになりました。今まで大切にしばってきた牛乳も処分しなければならぬし、お腹いっぱいエサをもらえなくなってしまうた牛の悲しそうな鳴き声を聞くのが一番辛かったです。

でもそんな時、北海道の酪農家のみなさん

から、大きなロール(干し草)が海を渡って届いたのです。何よりもうれしかったのは、そのロールにメッセージが書かれていたことです。お父さんが牛舎の入口にそのメッセージを貼りました。『頑張った分だけ未来は大きい』。

私たち家族がこの言葉にどれほど勇気をもらったかわかりません。未来はまだ何も決められていなくて、自分がつくり出していくものなんだということに気付くことが出来ました。私はこの恩を忘れず、人のために行動できる強い意志を持った人間になりたいです。

優秀賞

ありがとうございます、先生と看護師さん

福島市立大森小学校

かめだ  
亀田  
ありさ  
有咲

三年前の震災当日、私は、浪江町に住んでいました。しかし、原発事故の影響で、次の日には、何一つ持たないまま、福島市、喜多方市と次々と場所を変えながら避難しました。

喜多方市のホテルに身を寄せた日の真夜中のことでした。兄が急性の胃腸炎になり救急車で病院に運ばれました。先生や看護師さんの素早い対応のおかげで、兄はすぐに落ち

着きました。診察が終わると、私たちが避難してきたことを知った病院の先生と看護師さんは、仲間の看護師さんに連絡をとって、急いで私たちへ食べ物や洋服を持ってきてくださいました。朝方、病院の待合室で食べた、湯気の立ち上る、ほかほかのおにぎりのおいしかったこと、今でも忘れることができません。心も体も温まり、辛い気持ちを忘れることができた瞬間でした。私は、この日の出来事を今でも忘れることがありません。いつか社会に出たとき、人の心を温かく支えられるような人になりたいと強く思っています。

優秀賞

ありがとうの気持ちを忘れない

福島市立福島第三小学校

木下 涉きのした しやう

「ありがとう」

ぼくは、この言葉が大好きだ。なぜなら、言われた人はもちろん、言った人も笑顔になれるすてきな言葉だからだ。

ぼくは、普段から「ありがとう」という言葉をたくさん使うようにしている。友達に助けてもらった時や、先生や家族に分からないことを教えてもらった時、いろいろな場面で「ありがとう」という言葉が出てくる。

東日本大震災後、福島は世界中の人たちに助けもらった。震災から三年が過ぎた今も、福島の子どもたちのために、たくさんの方が支援してくれている。ぼくたちの学校にも応援の手紙が届いた。手紙と一緒に、どんぐりや松ぼっくりが入っていた。みんなで感謝の気持ちを込めて大切に使った。ぼくは、この時のうれしさを今でも覚えている。これからもきっと忘れることはない。

ぼくは、この「ありがとう」という気持ちを大切にしていきたい。

優秀賞

ありがとうの気持ちを忘れない

いわき市立平第三小学校

菅野 かんの

絵理 えり

「じちぞうさまでした。」私のクラスでは、

給食の時間がおわると、お皿を片づけるために、みんな配ぜん台の横にならびます。私の番がくると、ほぼ毎日食缶には残飯があります。私です。それを当たり前のように、私も残った物を捨てることがあります。でもそれがどれだけぜいたくなことなのかを、私たちは三年前体験しました。

福島県は、三年前の東日本大震災でさまざま

まな被害を受けました。そんな福島に、給食さえ食べられない国も、支援物資を送って下さいました。その時、福島の人々は食料、水などがどれほど大切なものなのか改めて感じさせられました。

福島の子ども達はありがとうの気持ちを忘れず、そしてありがとうの気持ちをこめて、貧しい国を少しでも豊かにできるように努めます。また、将来復興を担っていく私たちが災害に負けない強い姿を見せるのも、支援して下さった方々へのありがとうの気持ちをしめすものだと思えます。

優秀賞

「ありがとう」と伝えたい

いわき市立渡辺小学校

わたなべ  
渡邊

ももか  
桃香

私は、原発の事故により被災者になりました。避難当日は、何も持たずにバスに乗りました。一時間半くらいでつく所でしたが、町の人全員が町を脱出するために道路も避難所もいっぱい、避難指示が出てから、半日がたっていました。体育館の中は寒く、その日は新聞紙をかけて寝ました。

私が震災を経験して、名前もどこに住んでいるかも知らない人からたくさん物やイ

ベントの招待などいろいろな支援がありました。また、私たちのことを思い、涙を流しながら話を聞いてくれる人もいました。

震災前は、他の人の愛を感じることもなかったし、どこかの被災者のことも他人事のようにしか感じていませんでした。この震災で、なくした物もたくさんありましたが、それ以上に多くの人、世界中の人に支えられ愛されていることを私は知ることができました。世界中の人たちに今、本当に大きい声で「ありがとう」と伝えたいです。



平成26年11月1日 福島県教育委員会